

縮尺 20 万 分 の 1

土地分類図付属資料

北海道Ⅷ（釧路・根室支庁）

昭 和 54 年

国 土 庁 土 地 局

縮尺20万分の1 土地分類図付属資料

目 次

利用者のために

A 土地条件等の概要の部

1 地形区分とその性状等の概要	7
2 表層地質の分布とその性状等の概要	11
3 土壌の分布とその性状及び生産力可能性等の概要	13
4 土地利用可能性分級等の概要	19
4-1 土地利用現況の概要	19
4-2 土地利用可能性分級の地域別概要	22

B 統計の部

1 土地利用現況	28
1-1 市町村別土地利用現況内訳	28
1-2 D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳	30
2 自然的土地条件	32
2-1 市町村別傾斜区分別面積内訳	32
2-2 市町村別標高区分別面積内訳	33
2-3 市町村別地形区分別面積内訳	34
2-4 市町村別表層地質分布面積内訳	36
2-5 市町村別土壌統群分布面積内訳	40
3 土地利用可能性分級	46
3-1 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳	46
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	48
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	48
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	48
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	50
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	50
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	52
3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳	54

利用者のために

I 編集方針

この付属資料は、縮尺20万分の1土地分類図についての概要説明と、面積統計とに区分されるが、面積統計については、以下の要領により作成したものである。

例えば、2-1表「市町村別傾斜区分面積内訳」は、「傾斜区分図」（オーバーレイ）を市町村の行政区画単位に面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」については、「土地利用可能性分級図」及び「地形分類図」を用い、前者の類地パターンと、後者の地形区分のパターンとを重ね合わせて面積を測定し、両者の面積的関連を把握し作成したものである。

但し、1-1表「市町村別土地利用現況内訳」及び1-2表「D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳」については、北海道における各種統計資料等を調整して作成したものである。

なお、縮尺20万分の1土地分類図の各図幅と、付属資料の統計表との関連を示すと次表のとおりである。

土地分類図等の名称 統計表の名称	1 地形分類図	2 起伏量・谷密度図	3 傾斜区分図	4 表（平面的分層地質分類図）	5 表（垂直的分層地質分類図）	6 土壌分類図	7 土壌生産力可能性図	8 土性等級区分図	9 土地利用可能性分級図	10 土地利用可能性分級図	11 標高区分図	道統計資料等
1-1 市町村別土地利用現況内訳												○
1-2 D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳												○
2-1 市町村別傾斜区分面積内訳		○										
2-2 市町村別標高区分面積内訳										○		
2-3 市町村別地形区分面積内訳	○											
2-4 市町村別表層地質分布面積内訳				○								
2-5 市町村別土壌統計群分布面積内訳						○						
3-1 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳									○			
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○			
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○			
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○		
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性等級区分との関連							○		○			
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳									○			○

Ⅱ 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積図は、各図の示図表現の技術的な制約、即ち縮尺20万分の1土地分類図の場合には、最小図示単位として1Km²(図上5mm²)を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。特にパターンの小さい性格をもつ分類項目にあつては、やゝ少な目に数値が出る傾向がある。

したがって、この種の面積については、項目毎の絶対値を使用するのではなく、概括的な把握、ないし項目の構成比率等の利用に配慮されたい。

Ⅲ 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事実のないもの

「 」(空白)は編集時において資料がなく不明のもの

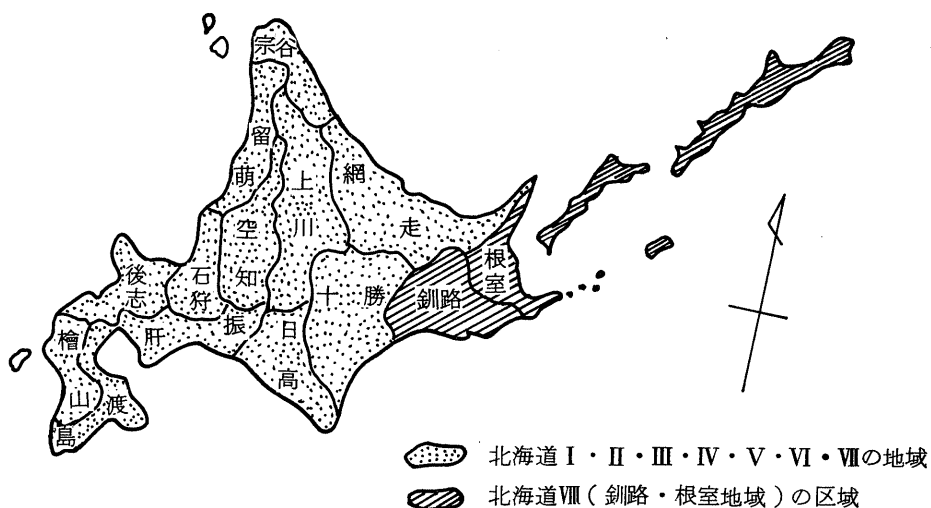
Ⅳ 調査機関一覧

調査項目	機 関 名	所 在 地
総 括 調 整	北 海 道 開 発 調 整 部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2433)
地 形 分 類	北 海 道 教 育 大 学 札幌分校(奈良部理) 函館分校(瀬川秀良) (総 括) 岩見沢分校(野川 潔) 旭川分校(小杉健三)	札幌市中央区南24条西13丁目 〒064 TEL 011-561-4281 札幌市中央区南24条西13丁目 〒064 TEL 011-561-4281 函館市人見町22-4 〒040 TEL 0138-41-1121 岩見沢市緑ヶ丘 〒068 TEL 01262-2-1470 旭川市北門町9丁目 〒070-01 TEL 0166-51-6151
表 層 地 質	北海道立地下資源調査所	札幌市中央区南11条西3丁目 〒060 TEL 011-511-0111
土 農 地 林 地 壤	(総 括) 農林省北海道農業試験場 農林省林業試験場北海道支場 北海道立林業試験場	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒061-01 TEL 011-851-9141 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒062 TEL 011-851-4131 美唄市光珠内町東山 〒079-01 TEL 01226-3-4164
土地利用現況	北 海 道 開 発 調 整 部	札幌市中央区北3条西6丁目 〒060-91 TEL 011-231-4111(内線2433)
土地利用可能性 分 級	農林省北海道農業試験場	札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 〒061 TEL 011-851-9141

V 縮尺20万分の1土地分類基本調査のすすめ方

北海道を5ブロックに区分し、次表のスケジュールにより昭和47年度から昭和52年度の6カ年で調査を行なった。

地区番号	調査年度	支庁名 (地域名)	調査面積	図幅区分	図幅単位 別面積
I	47~48	石狩	3,551 (Km ²)	1	11,555 (Km ²)
		後志	4,302		
		胆振	3,702		
II	48~49	十勝	10,831	2	15,669
		日高	4,838		
III	49~50	空知	6,586	3	6,586
		上川	9,870	4	9,870
IV	50~51	渡島	3,726	5	6,581
		檜山	2,855		
		網走	10,687	6	10,687
V	51~52	宗谷	4,076	7	8,105
		留萌	4,029		
		根室	3,459	8	9,462
		釧路	6,003		
	47~52	計	78,515		78,515



A. 土地条件等の概要の部

1 地形地域区分とその性状等の概要

1-1 釧路地域

1-1-1 総説

釧路地域は南は太平洋に面し、北に阿寒・屈斜路・摩周の火山群、西に第三系からなる丘陵性の白糠山地があるほか、東は根釧台地に連続する全体的に台地性の丘陵からなる。その中央を釧路川、阿寒川等が南流し、その流域には谷底平野及び河岸段丘が発達し、下流に低湿な釧路平野が展開する。釧路市東端部、厚岸町太田付近、浜中町茶内・姉別付近には広くローム台地が発達する。

西部から北部に連なる山地の北部は、知床半島の延長である火山地域で、摩周・屈斜路・阿寒等のカルデラ湖を有する火山群からなる。雄阿寒岳、雌阿寒岳、カムイヌプリ及び屈斜路カルデラ壁上等は大・中起伏火山地を形成する。摩周湖周辺には広い火山麓地が展開するほか、摩周湖北部やパンケトラ付近には火山性丘陵地が発達する。

南部の白糠山地は、一般に白糠丘陵と呼ばれる地域で、第三系からなる丘陵性の小起伏山地を形成している。

これら山地の前縁部、音別町から弟子屈町南部にかけて、山地の延長方向とほぼ平行に大起伏丘陵地が発達する。小起伏丘陵地は、大起伏丘陵地の前縁部から、本地域の東半部にかけて広く発達する。

なお、東部では釧路村から厚岸町の太平洋岸にかけての、白亜系及び古第三系の分布地域にも大起伏丘陵地が分布する。

釧路地域の台地・段丘は、その大部分がローム及び砂礫台地で、岩石台地は狭少で図示できない。砂礫台地は釧路川及び阿寒川上流部及び阿寒湖、屈斜路湖の湖岸等、北部の山地域に分布が限られるのに対して、ローム地域はほぼ全域にわたって河岸及び海岸沿いに段丘状に発達するほか、洪積統や白亜系の分布地域に広くまとまった分布が認められる。浜中町、標茶町の一部では、この上に摩周系統の降下軽石及び火山灰層が厚く分布している。

低地は、各河川沿いに谷底平野が発達し、河口部付近には三角州性低地が展開する。特に中央部の釧路低地は、本地域最大の泥炭性低地である。釧路低地や霧多布低地の外縁部には沿岸砂州が発達し、一部は砂丘状を呈する。

1-1-2 地形区分

釧路地域の地形地域は、各地形のまとまりのうえから次のように分類した。

A I 北部火山地

- 3 摩周火山地 4 屈斜路火山地 5 阿寒火山地

A II 西部山地

- 1 白糠山地 2 鶴居山地

B I 白糠丘陵地

- 1 白糠丘陵 2 庶路丘陵

B II 根釧丘陵地

- 1 鶴居丘陵 2 久著呂丘陵 3 標茶丘陵 4 釧路丘陵 5 厚岸丘陵

C I 釧路台地

- 1 釧路台地 2 鶴居台地

C II 根釧台地

- 2 虹別台地 3 別海台地 4 太田台地 5 浜中台地

D I 太平洋岸低地

- 1 音別低地 2 庶路低地 3 釧路低地 4 厚岸低地 5 霧多低地

D II 内陸低地

- 1 美留和低地 2 釧路川低地

1-1-3 地域別の地形区概要

A I 北部火山地

本火山地は知床半島の延長部と考えられる火山群で、摩周火山地（A I-3）、屈斜路火山地（A I-4）、阿寒火山地（A I-5）に区分される。摩周火山地はカムイヌプリ（855m）を主峰とする火山地で、カルデラ湖の摩周湖を中心に、周辺に軽石流からなる広い火山麓地を展開する。屈斜路火山地は、その大半をカルデラ湖の屈斜路湖で占められる。北部から西部にかけてカルデラ壁が発達し、その下部は第三系からなる中起伏山地をなす。東南部にはアトサヌプリ（574m）をはじめとする火山群が占める。阿寒火山地は、雌阿寒岳（1503m）、雄阿寒岳（1371m）を含む火山地で、中央部に阿寒湖、パンケトウ等の湖水が分布する。阿寒湖岸には湖岸段丘が発達する。

A II 西部山地

本山地は第三系からなる丘陵性の山地で、白糠山地（A II-1）、鶴居山地（A II-2）に区分される。いずれも小起伏山地であるが、白糠山地北端の徹別岳（877m）付近に中起伏山地が分布する。

B I 白糠丘陵地

大部分が第三系からなる丘陵地で白糠丘陵（B I-1）、庶路丘陵（B I-2）に区分される。白糠丘陵では北部の白糠山地前縁部に大起伏丘陵地が分布し、南半部は小起伏丘陵地が占める。庶路丘陵は南部の第四系の分布地域を小起伏丘陵地が占めるほかは、大部分が大起伏丘陵地である。

B II 根釧丘陵地

鶴居丘陵（B II-1）、久著呂丘陵（B II-2）、標茶丘陵（B II-3）、釧路丘陵（B II-4）、厚岸丘陵（B II-5）に区分される。ほとんどが第四系の分布地域であるが、釧路丘陵の南半部及び厚岸丘陵の大部分は第三系及び白亜系からなる。西部の鶴居丘陵の大部分、久著呂丘陵の北部及び太平洋岸の一部に大起伏丘陵が分布するほかは、大部分が小起伏の台地性丘陵地である。

C I 釧路台地

釧路台地（C I-1）と鶴居台地（C I-2）に区分される。いずれもローム台地であるが、釧路台地では高低二段に区別される。

C II 根釧台地

虹別台地（C II-2）、別海台地（C II-3）、太田台地（C II-4）及び浜中台地（C II-5）に区分される。太田台地をのぞく各台地は、いずれも隣接の根室支庁管内にまたがって分布するものである。虹別台地は摩周火山麓地に発達する。火山砂礫を主とする扇状地性の砂礫台地である。別海台地はローム台地で、そのごく一部が本地域に分布しているに過ぎない。太田台地及び浜中台地はいずれもローム台地であるが、両地域ともに白亜系の上に第四系が分布する地域である。虹別台地、別海台地及び浜中台地の北洋部には、摩周系統の降下軽石及び火山灰層が厚く分布している。

D I 太平洋岸低地

泥炭性の三角州低地で、音別低地（D I-1）、庶路低地（D I-2）、釧路低地（D I-3）、厚岸低地（D I-4）、霧多布低地（D I-5）に区分される。いずれも河口付近に形成された低湿

地で、なかでも釧路低地が最大である。庶路低地及び釧路低地の汀線付近には砂州が形成されている。霧多布低地は陸けい砂州により形成された泥炭性平野である。

D II 内陸低地

釧路川中・上流部に発達する低地で美留和低地（D II-1）及び釧路川低地（D II-2）に区分別れる。美留和低地は阿寒湖岸の低位段丘を含む低地で、砂礫段丘が発達する。釧路川低地は大部分が谷底平野であるが、弟子屈付近では低位の砂礫段丘も含まれる。

北海道教育大学岩見沢分校

野 川 潔

1-2 根 室 地 域

1-2-1 総 説

根室地域は北海道最東端に位置する地域で、南は太平洋、東は根室海峡に面する。北部は知床半島とその延長部で境され、南の太平洋岸に分布する隆起海食台の根室半島と、その延長部たる浜中台地との間には、主として第四系からなる広い洪積台地である、いわゆる根釧台地が発達する。東部は釧路支庁管内の標茶・厚岸両丘陵に接している。知床半島及びその延長部の主要部は、第三系の基盤上に発達する第四紀の火山地で占められる。根釧台地上を流れる標津川、西別川等の主要河川は、上流部は知床半島の延長方向にほぼ直角に北西～南東の方向に流下するが、中流部で大きく方向を変え、東ないし北東方向に向かい、根室海峡に注ぐ。河口部には低湿な三角州低地が展開される。根室海峡沿いには、分岐砂嘴である野付半島に囲まれた野付湾岸や、海跡湖である風蓮湖周辺部にも三角州性低地が発達する。

1-2-2 地形区分

根室地区の地形地域には、各地形のまとまりのうえから次のように分類した。

A I 北部火山地

- 1 知床火山地
- 2 標津火山地

B II 根釧丘陵地

- 3 標茶丘陵

C II 根釧台地

- 1 武佐台地
- 2 虹別台地
- 3 別海台地
- 5 浜中台地
- 6 根室台地

D II 根室海峡沿岸低地

- 1 標津低地
- 2 野付湾岸低地
- 3 風蓮低地

1-2-3 地域別の地形区概要

A I 北部火山地

知床半島及びその延長部である本山地は、知床火山地（A I-1）及び標津火山地（A I-2）に区分される。知床半島は、千島火山帯が半島の中軸に沿って走っているために、基盤の第三系を覆って、第四紀の火山活動によって噴出した火山群が半島の稜線を形成している。知床火山地は、知床岳（1,254m）、硫黄山（1,563m）、羅臼岳（1,661m）、遠音別岳（1,331m）、海別岳（1,419m）等の新旧火山群が主要部を形成する。稜線沿いには大起伏ないし中起伏火山地が分布し、その周辺に基盤岩からなる小起伏山地が分布する。海岸には海食崖の発達が著しいが、先端

の知床岬付近及び中部ルサ川以南には海岸段丘の発達も認められる。標津火山地は斜里岳（1,545 m）、武佐岳（1,006 m）、標津岳（1,069 m）等の旧火山からなる地域で、山頂付近は大起伏及び中起伏火山地が占め、その周辺に小起伏山地が分布する。養老手温泉付近には大起伏丘陵地が分布する。

B II 根釧丘陵地

標茶丘陵（B II - 3）は別海町の西端部に、ほんの僅かだけかかる地域で、その殆んど部分は釧路支庁管内に分布する小起伏丘陵地である。

C II 根釧台地

武佐台地（C II - 1）、虹別台地（C II - 2）、別海台地（C II - 3）、浜中台地（C II - 5）、根室台地（C II - 6）に区分される。武佐台地及び虹別台地は、いずれも火山山麓の扇状地性台地であるが、虹別台地は砂礫台地であり、武佐台地は厚くロームに覆われたローム台地である。別海台地は根釧台地の中軸部をなすもので、ローム台地からなるが、西別川沿いには低位砂礫段丘が分布する。台地面は開析の違いにより上位と中位に区分される。各河川沿いには狭大な谷底平野が分布する。浜中台地はその東半部が本地域に含まれ、隆起海食台上に火山性ロームをのせるローム台地で、北縁部の風蓮低地沿いには低位のローム台地が分布する。根室台地も隆起海食台上に火山性ロームをのせるローム台地で、上位と下位に二分される。

D II 根室海峡沿岸低地

標津川河口を中心とした標津低地（D II - 1）、野付湾岸及び野付半島の小低地群を含む野付湾岸低地（D II - 2）、西別川及び風蓮川河口部、風蓮湖及び温根沼周辺の低地である風蓮低地（D II - 3）に区分される。いずれも低湿な海岸低地であるが、西別川及び標津川下流部には自然堤防が発達する。風蓮湖と根室海峡の間及び野付半島には砂州が発達する。

北海道教育大学岩見沢分校

野 川 潔

2 表層地質の分布とその性状等の概要

2-1 一般地質

この地域の地質構成とその配列をみると、この地域は、常呂一豊頃帯(国境山地)、千島帯内帯(知床半島)および千島帯外帯(根室半島)に分けられる。常呂一豊頃帯は北東～南西の構造で特徴付けられ、千島帯内帯は火山活動の活発な地帯、千島帯外帯は東北東～西南西方向の構造と中生層でそれぞれ特徴付けられる。以上の3つの構造单元にかこまれるようにして、沈降帯としての根釧原野が広がっている。

2-1-1 釧路地域

地質的にみると、この地域は次の5地区に大きく分けることができる。ⅰ) 白糠丘陵地区(阿寒川以西)、ⅱ) 太平洋沿岸地区(釧路一浜中)、ⅲ) 火山地区、ⅳ) 鶴居丘陵地区、ⅴ) 低地地区。

ⅰ) 白糠丘陵地区

この地区の大部分は固結堆積岩で構成されている。基盤をなす白亜紀層は、国境山地に広い分布をしめすほか、雄別卸層沿いに小規模な分布が認められる。岩相は主に泥岩から成り若干の砂岩を挟在する。古第三紀層は、砂岩・泥岩・石炭などの互層から成る部分と、泥岩の卓越する部分からみられ、新第三紀層は、砂岩・泥岩互層、泥岩層が卓越する。阿寒川沿いに段丘が発達している。

地質構造は、ウコタキヌブリ断層、雄別断層で代表されるようなNE-SW系の断層や同系の褶曲構造が発達している。

ⅱ) 太平洋沿岸地区

この地区は主に白亜紀の固結堆積物で構成され、そのほかに、古第三紀層、新第三紀層、末固結堆積物が分布している。白亜紀層は、尾幌付近には泥岩が広く分布する他は、砂岩および砂岩・泥岩の互層である。古第三紀層は釧路～昆布森に分布し、岩相は礫岩と砂岩・泥岩互層が主である。新第三紀層は糸魚沢付近に小規模に分布し、岩相は泥岩が卓越する。大局的な地質構造は、海岸線にほぼ平行な走向で、海側にゆるく傾斜している。

段丘上には段丘堆積物が、谷底平野には泥岩が分布している。釧路付近には釧路層及び軽石流堆積物が基盤岩類をおおって分布している。

ⅲ) 火山地区

阿寒湖、屈斜呂湖、摩周湖はいずれもカルデラ湖であって、雌阿寒岳、雄阿寒岳を始めとして火山の多い地区である。したがって火山性岩石が広い分布をしめ。火山山体は安山岩で構成され、山麓には基盤の凝灰岩が分布する。屈斜呂湖畔から釧路川流域には軽石流堆積物や沖積低地などの平坦面が発達する。

ⅳ) 鶴居丘陵地区

この地区は末固結堆積物、火山灰、軽石流堆積物、凝灰岩などから構成されている。丘陵の骨格を構成する末固結堆積物は釧路層と呼ばれる更新統で、層相変化が著しい。大局的にみると、北部は軽石に富む粗粒相が、大楽毛周辺では砂礫を主とする粗粒相が、塘路湖周辺では砂に富む層相がそれぞれ発達している。奥クチャロ付近では釧路層をおおって古期火山灰が分布する。以上の各層をおおって、阿寒カルデラから流下した黒色溶結凝灰岩(表層地質では凝灰岩として表示)が分布する。また釧路川沿いを中心に屈斜呂軽石流が広がっているが、薄い部分は省略した。この地区では河川流域に段丘が良く発達している。釧路川以東の地区は厚い新規火山灰におおわれている。

V) 低地地区

釧路川および阿寒川下流に広がる湿原は、“釧路湿原”と呼ばれる湿潤な沖積平野である。沿岸部には10列余の砂丘列があり、湿原と海域を境いしている。湿原の表面には厚い泥岩層があり、その下位には厚い軟弱な粘土層が連続していて、典型的な軟弱地盤地帯を形成している。

2-1-2 根室地域

この地域は次の3地区に大きく分けることができる。i) 根室半島地区、ii) 知床半島地区、iii) 根釧原野地区。

i) 根室半島地区

この地区は、固結堆積物とそれをおおう未固結堆積物で構成されている。固結堆積物は白亜紀の砂岩、砂岩・泥岩互層で、この地区の基盤を構成している。この地層には“根室軽石”で有名な粗粒玄武岩や安山岩質集塊岩を介在する。

この地区は地質構造上、千島帯外帯に属していて、白亜紀層は $N 40^{\circ} \sim 70^{\circ} E / S E 10^{\circ} \sim 20^{\circ}$ の単斜構造をしめしている。厚床周辺には、未固結堆積物である釧路層や風蓮湖層が分布する。以上の各層をおおって砂礫から成る段丘堆積物が分布する。

ii) 知床半島地区

この地区は主として火山性岩石で構成されている。この地区の最下位層は忠類層であって、グリーン・タフで特徴付けられる。このグリーン・タフ中をプロピライト化した粗粒玄武岩がひんばんに貫いている。一部に集塊岩相を示すところもみられる。上位の越川、幾品層は泥岩を主とする地層であるが、大部分は段丘堆積物におおわれる。半島の脊梁部には第四紀の火山が連り、安山岩質岩石か火山角礫岩が分布する。また忠類川から植別川にかけての各河川下流域には厚い段丘堆積物が広く分布している。

iii) 根釧原野地区

広大な根釧原野地区は、厚い新期火山灰におおわれていて、基盤の地質の詳細については明らかでない。オホーツク沿岸で、茶志骨層、戸春別層、薫別層などと呼ばれる更新統が知られている。また釧路地区との境界付近には、軽石流堆積物の分布も知られている。

オホーツク海沿岸のほほ中ほどに、我が国最大の分岐砂嘴である野付半島が突出している。さらに根室半島基部では砂州によって風蓮湖が形成されている。

北海道地下資源調査所

松 下 勝 秀

3 土壌の分布とその性状および生産力可能性等の概要

3-1 土壌の類別および作図の方法

本調査における土壌の類別は、表-1の土壌統群一覧表に示した基準に従って実施した。

図示単位は、原則として土壌統群を使用した。山地、丘陵地地域のうち線状あるいは小斑状に細かく分布するために、本縮尺では図示困難ないくつかの土壌統群については、それらの混在相の規則性に基づいて、表-2に示すように10の土壌混在区を設け、それを作図単位とした。すなわち、表-1において※印のついた9の土壌統群は、それぞれ単独では図示単位として使用されておらず、他の土壌統群との組合せ（土壌混在区）で図示されている。なお、分級、面積計測など土壌図を使った一連の作業は、表-1の土壌統群（※印を除く）と表-2の土壌混在区について行なった。

また表-1、表-2のうち、本図幅内に分布しなかったものが、7土壌統群（くろぼく土壌b、湿性くろぼく土壌b、淡色くろぼく土壌b、赤色土壌、暗赤色土壌、グライ土壌、グライ台地土壌）あり、作図できる規模がなく、図示しなかった混在土壌群が1つ（褐色森林土壌-粗粒火山放出物未熟土壌）あった。柱状図は土壌統群ごとに示し、混在区はその両者を示した。（本図幅内に分布しなかったものを除く）。

表 - 1 土 壤 統 群 一 覧 表

大 分 類 (土 壤 群)	中 分 類 (土 壤 亜 群)	小 分 類 (土 壤 統 群)
岩石地	岩石地	岩石地※
岩屑土	高山性岩屑土	高山性岩屑土※
	岩屑土	岩屑土※
未熟土	残積性未熟土	残積性未熟土※
	砂丘未熟土	砂丘未熟土※ 湿性砂丘未熟土※
	火山抛出物未熟土	火山抛出物未熟土※ 粗粒火山抛出物未熟土※ 湿性粗粒火山抛出物未熟土※
くろぼく土	累層くろぼく土	累層くろぼく土※ 湿性累層くろぼく土※
	くろぼく土	くろぼく土※ a (くろぼく土) くろぼく土※ b (ローム質くろぼく土) 湿性くろぼく土※ a (くろぼく土) 湿性くろぼく土※ b (ローム質くろぼく土)
	未熟くろぼく土	未熟くろぼく土※ 湿性未熟くろぼく土※
	淡色くろぼく土	淡色くろぼく土※ a (くろぼく土) 淡色くろぼく土※ b (ローム質くろぼく土)
褐色森林土	褐色森林土	乾性褐色森林土※ 褐色森林土※ 湿性褐色森林土※ 褐色森林土IV
	暗色系褐色森林土	暗色系褐色森林土※
ポドゾル	乾性ポドゾル	乾性ポドゾル化土※
	湿性ポドゾル	湿性ポドゾル化土※
赤黄色土	赤色土	赤色土※
暗赤色土	火山性暗赤色土	火山性暗赤色土※
褐色低地土	褐色低地土	褐色低地土※ 粗粒褐色低地土※
灰色低地土	灰色低地土	細粒灰色低地土※ 灰色低地土※ 粗粒灰色低地土※
	灰色台地土	灰色台地土※
グライ土	グライ土	細粒グライ土※ グライ土※ 粗粒グライ土※
	グライ台地土	グライ台地土※
泥炭土	高位泥炭土	高位泥炭土※
	中間泥炭土	中間泥炭土※
	低位泥炭土	低位泥炭土※

※ 単独で図示せず、他の土壌統群との組合せ（混在区）で図示した。

表－2 混在相図示単位一覧表（山地・丘陵地について）

土 壤 混 在 区	主 要 構 成 土 壤（ 統 群 ）
高山性岩屑土壌 — 岩石地	高山性岩屑土壌・岩石地（モザイク配列）
岩屑土壌 — 岩石地	岩屑土壌・岩石地（モザイク配列）
褐色森林土Ⅰ	乾性褐色森林土壌（尾根筋）・褐色森林土壌（中腹）・ 湿性褐色森林土壌（斜面下部）のカテナ配列。面積比で乾 性が25%以上をⅠ、湿性が25%以上をⅡ、乾湿それぞ れ25%未満をⅡとした。
褐色森林土Ⅱ	
褐色森林土Ⅱ	
褐色森林土 — 粗粒火山抛出处未熟土壌	褐色森林土壌・粗粒火山抛出处未熟土壌
褐色森林土 — くろぼく土	褐色森林土壌・各種くろぼく土壌
褐色森林土 — 乾性ポドゾル化土壌	褐色森林土壌（山腹）・乾性ポドゾル土壌（尾根筋）
暗色系褐色森林土 — ポドゾル化土壌	暗色系褐色森林土壌（山腹）・ポドゾル土壌（主に乾性、 尾根筋）
ポドゾル化土壌Ⅰ	乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森林土壌・褐色森林土壌
ポドゾル化土壌Ⅱ	湿性ポドゾル化土壌・乾性ポドゾル化土壌・暗色系褐色森林 土壌・褐色森林土壌
ポドゾル化土壌 — 高山性岩屑土壌	ポドゾル化土壌（主に乾性、ハイマツ群落下）・高山性岩屑土壌

3－2 山地および丘陵地の土壌

3－2－1 全域の概要

根室・釧路地域の総面積は9,462 Km²である。このうち、山地、丘陵地に属するものが総面積の36.2%（3,481 Km²）、台地、低地に属するものが61.2%（5,787 Km²）、その他、氾濫原、市街地、河川、湖沼などが2.1%（194 Km²）となっており、山地、丘陵地は林地、台地、低地は主として農地に利用されている。

この地域に分布する土壌群は前記したとおりであるが、概括すると、くろぼく土壌が、53.4%（5,052 Km²）で最も広く、次いで褐色森林土壌（褐色森林土壌とくろぼく土壌、その他土壌との混在区を含む）が21.2%（2,002 Km²）で大半を占め、泥炭土（低位泥炭土壌が主体）が8.5%（799 Km²）がこれにつき、未熟土壌（火山放出物未熟土壌が主体で砂丘未熟土、残積性未熟土が僅かに存在する）が4.1%（384 Km²）分布し、更に小面積であるがポドゾル（2.8%－266 Km²）、褐色低地土壌（2.8%－262 Km²）、灰色低地土壌（2.5%－233 Km²）がある。

全面積の過半を占めるくろぼく土壌および火山放出物未熟土壌は本地域の中央西部支庁界に位置する摩周、カムイヌプリ、雄阿寒岳、雌阿寒岳、アトサヌプリ、斜里岳の放出物に由来し（知床硫黄山、羅臼岳などについては未調査）、その多くが8400y. BPよりも新しい放出物なので、現地形に沿って累積しているが、地形が急峻な山地、丘陵地では削剝を受け、保存の良い所との混在土壌群が多く、台地、低地では侵蝕が少なく、累積する火山放出物の種類が多く、従って層厚も厚く、弟子屈、標茶、阿寒および中標津の噴出源に近い所では火山放出物未熟土が分布するが、降灰主軸より離れるか、噴出源より遠ざかるかにしたがって薄層の累層となり、粒子も細かく、腐植の集積が多くなるの

で、火山放出物未熟土壌から未熟くろぼく土壌、くろぼく土壌、累層くろぼく土壌に移行し、海岸に近づくにつれ標高差を感じ、地下水位が高く、海霧の影響も加わり、腐植含量が極めて多く、保水力の強い湿潤地が広がっている。

褐色森林土壌とポドゾルのうち、くろぼく土壌と混在しないものは、57.9% (1,312 K_g)で、このうち最も広いものは褐色森林土壌Ⅱ、30.9% (701 K_g)、次いでポドゾル化土壌—高山性岩屑土壌が7.7% (174 K_g)、褐色森林土壌—ポドゾル化土壌、5.5% (125 K_g)、褐色森林土壌Ⅰ、3.5% (79 K_g)、ポドゾル化土壌Ⅱ、3.1% (71 K_g)で他の土壌群の分布は極めて少ない。

泥炭土は低位泥炭土壌が91.5% (731 K_g)で主体を占め、低地土では火山砂が母材となるため、褐色低地土の60.3% (158 K_g)、グライ土の85.8% (59 K_g)が粗粒質である。灰色台地土の分布は極めて少ない (11 K_g)。

(北海道農業試験場 佐々木 龍 男)

3-2-2

本地域の山地・丘陵地は、地形・地質などによって、知床火山群、白糠丘陵地、阿寒火山群の3つに大別される。各々の地帯における土壌群の分布と特徴をのべると、つぎのとおりである。

1) 知床火山群地帯

北東部に位置する知床岬から羅臼岳 (1,661 m)、遠音別岳 (1,331 m) を経て海別岳 (1,419 m) と斜里岳 (1,545 m) との界を流れる忠類川までの区域ある。

この地帯は、斜里、羅臼岳などの火山抛出物 (古期) が数10 cm 降下していると考えられる。

山地の高海拔地では大部分がポドゾル化土壌—高山性岩屑土壌群域で占められ、北東から南西に細長く出現分布している。このほか僅かに高山性岩屑土壌—岩石地群域が羅臼岳と遠音別岳周辺にみられる。これらの土壌群域の分布するところは比較的地形が急峻のため、降下堆積した火山抛出物 (火山灰) は流亡し、基層である安山岩のうえに現在約5 cm 程度の火山抛出物が被っている。さらに高山性岩屑土壌—岩石地群域の下部に接続して、褐色森林土壌—ポドゾル化土壌および暗色系褐色森林土壌—ポドゾル化土壌群域の出現をみるが、いずれも僅かの面積で散在分布しているにすぎない。これらの両土壌群域は主として安山岩を基層とするが一部の地域に新第三紀層を基層としているところもある。火山抛出物は、これらの基層のうえに約10～20 cm 前後のものが被っている。

丘陵地では、褐色森林土壌—くろぼく土壌群域が、知床岬から忠類川にかけて広範囲に分布し、占有面積は最も大きい。ついで、くろぼく土壌 (くろぼく) で、飛仁帯から羅臼町を経て春日に至る海岸線ぞいと、忠類川周辺に分布し、いずれも褐色森林土壌—くろぼく土壌分布域の下部に出現している。これらは安山岩および新第三紀層を基層とし、傾斜は比較的ゆるやかで、そのため残存火山抛出物は厚く堆積している。約40～60 cm の厚さを示すが、場所によっては100 cm を越える場合もみられる。このほか、褐色森林土壌Ⅱ群域は羅臼町周辺に分布しているが、その面積は極めて僅少である。

山地のほとんどが林地であり、ポドゾル化土壌—高山性岩屑土壌群域以外の土壌群域では大半が針広混交林で占められている。丘陵地は広葉樹林が主体をなし、一部カラマツなどの造林地もみられる。この地帯は全般に良好な生育を示しているとは、いいがたいようである。

2) 白糠丘陵地帯

本図幅の阿寒川を境とし南西に位置する。最高部はウコタキヌブリ (745 m) である。

この地帯は褐色森林土壌Ⅱ群域が広範囲分布し、占有面積も極めて大きい。ついで褐色森林土壌—くろぼく土壌群域である。この土壌群域は、庶路川、舌辛川、茶路川、および馬主来川流域にそれぞれ南北に細長く分布し、褐色森林土壌Ⅱ群域に接している。このほか、褐色森林土壌Ⅲ群域は音別町

の北方および庶路川上流にみられるが、その面積は僅少である。また海拔高500～600m附付には褐色森林土壌Ⅰ群域が、さらに600m以上の高海拔地に至ると、褐色森林土壌－ポドゾル化土壌および暗色系褐色森林土壌－ポドゾル化土壌群域が分布する。基層は中生代、古第三紀、新第三紀で、そのうえに火山拋出物が、約10～20cm前後のものを被っている。林地は針広混交林で占められている。人工林はカラマツ・トドマツなどを主とした造林が行なわれ広範囲にわたっている。これらの生育は比較的良好といえる。

3) 阿寒火山群地帯

知床火山群地帯と白糠丘陵地帯にはさまれた中間地帯であり、火山拋出物が厚く堆積し、土壌群域の分布は極めて複雑である。

この地帯の高所である雌阿寒岳(1,371m)および斜里岳(1,545m)の頂部にはポドゾル化土壌－高山性岩屑土壌群域が分布している。雌阿寒岳の南東には火山拋出物未熟土壌、褐色森林土壌－くろぼく土壌、累層くろぼく土壌の各群域が出現分布する。北西部にはポドゾル化土壌Ⅱ、褐色森林土壌－ポドゾル化土壌、暗色系褐色森林土壌－ポドゾル化土壌の各群域が分布している。これら各土壌群域のうち、最も大きな面積を占めるものは褐色森林土壌－くろぼく土壌および累層くろぼく土壌である。

斜里岳では南に岩屑土壌、暗色系褐色森林土壌－ポドゾル化土壌、褐色森林土壌－くろぼく土壌、くろぼく土壌(くろぼく)および未熟くろぼく土壌の各群域が出現分布する。これらのうち、褐色森林土壌－くろぼく土壌群域の占める割合がもっとも大きい。このほか、標津岳周辺には褐色森林土壌Ⅰ群域が、また武佐岳周辺には暗色系褐色森林土壌－ポドゾル化土壌群域が出現分布しているが、いずれも占有する面積は僅少である。さらに摩周および屈斜路周辺には、粗粒火山拋出物未熟土壌群域の分布が多く、ついで未熟くろぼく土壌(くろぼく)、褐色森林土壌Ⅰ群域がみられるが、その面積は僅少である。

この地域の林地は、針葉樹林および針広混交林が大半である。とくに阿寒周辺にはアカエゾマツの大規模な純林が存在している。一方、人工林は海拔高約600m以下の林地を対象にアカエゾマツ、トドマツなどの造林が実施されている。その生育は粗粒火山拋出物未熟土壌および火山拋出物未熟土壌群域を除く他の土壌群域では比較的良好な生長過程を示している。

(林業試験場北海道支場 山 本 肇)

3-3 台地及び低地の土壌

3-3-1

本地域の台地、低地の土壌を極言すれば火山灰と泥炭ということができる。即ち、台地は降下火山灰(一部軽石流)の累積する、くろぼく土(北海道では火山性土と謂う)、低地は泥炭土の分布が広く、沖積土も火山灰を主材とするため火山性土の性質を示し、気候冷涼、濃霧などの悪条件を加え、中標津附近、阿寒、白糠の内陸部および弟子屈で馬鈴薯、豆類、そ菜などが栽培されているほかは総て草地および放牧地として利用(近年一部デンコーン)されている。

3-3-2 本地域は気候、土壌の面から次の4地帯に区分できる。

1) オホーツク海および太平洋沿岸地帯

崎無異川以南根室ノサップ岬に至る野付水道および根室湾に面する巾約15kmの細長い地帯と太平洋の沿岸地帯で、冬期はかなり寒冷となり海霜が来襲する。土壌は累層くろぼく土壌、湿性累層くろ

ぼく土壌で、沖積低地では泥炭土壌が主体を占める。

2) 知床半島地帯

崎無異川以北のオホーツク海および根室水道に面したいわゆる知床半島部である。平坦地帯では海洋性を帯びる。土壌は新期火山灰の降下主軸を離れ、非火山性土（褐色森林土壌Ⅱ、褐色低地土壌（粗粒）、灰色低地土壌（粗粒））があり、泥炭土壌は分布しない。

3) 山麓地帯

根釧原野北西部の十勝、網走両支庁との境をなす山地、丘陵地に接する地帯で、気象的悪条件のほか、火山灰層が厚く、風化の進まない火山放出物未熟土壌、未熟くろぼく土壌、埋没未熟火山灰を夾在するくろぼく土壌が広く、褐色低地土は粗粒質、泥炭土壌は分布しない。生産性の低い地帯である。

4) 内陸地帯

周辺の海岸地帯、山麓地帯を除いた根釧原野の主要部分で農地の対象として最も重要なところである。根釧地方において内陸気候を呈し、冬季は最も寒冷となり、夏季（農期）は海霧の影響も少なく、かなり高温に達し、この点農業に恵まれているところである。しかし一面無霜期間がはなはだ短かい欠点もある。

土壌は弟子屈町に粗粒火山放出物未熟土壌が分布（58%）するが、他は未熟くろぼく土壌、くろぼく土壌aが主体を占め、低地土では褐色低地土壌（粗粒を含む）が広く、泥炭土の分布は少ない。

（北海道農業試験場 佐々木 龍 男）

4 土地利用可能性分級

4-1 土地利用現況等の概要

根室・釧路地域（行政区域としては根室支庁及び釧路支庁管内）は、北海道の南東部に位置し、東は根室海峡、野付水道に、南は太平洋に面し、北は雌阿寒岳、摩周岳等の活火山が連なる知床阿寒火山群をへだてて網走地域に、西は白糠丘陵をへだてて十勝地域に接する面積9564km²（本道総面積の約11%）、人口約39万7千人（本道総人口の約7%）の地域である。

本地域の大部分は、洪積層からなる根釧台地によって占められているが、釧路川、阿寒川、標津川、西別川などの流域の低地には、主として低地泥炭からなる湿原が形成されており、その代表的なものは約2万9千haに及ぶ釧路湿原である。

本地域の気候は、気候区分からみると、表-3及び図-1のとおり、「太平洋側-根釧（沿岸、平野）」として区分され、年平均気温は3℃～6℃、最暖月平均気温は、「沿岸」で17℃～19℃、

図-1 北海道の気候区分図

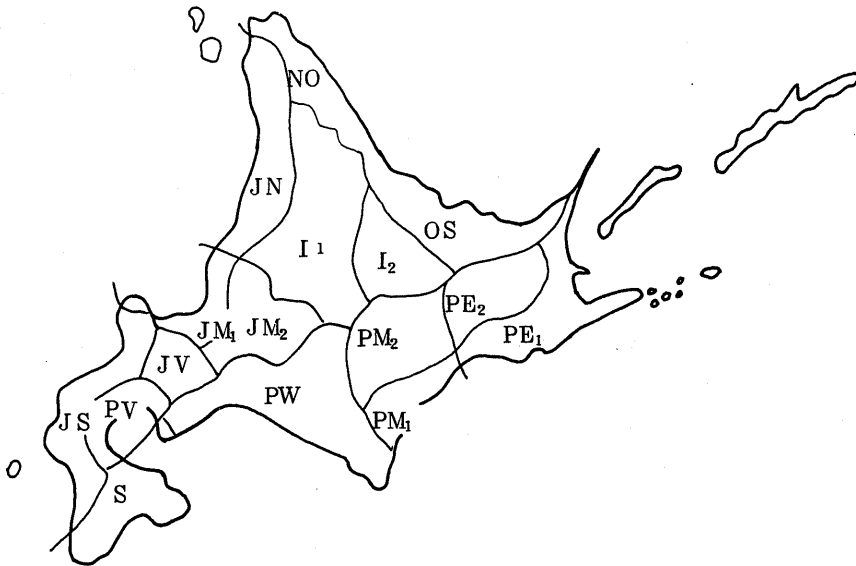


表 - 3 北 海 道 の 気 候 区 分

区 分			年平均気温	最暖月平均 気 温	最寒月平均 気 温	降水の特徴	その他特殊事項	
S	南 端 部		8 ～ 9 ℃	21～23℃	-2～-4℃	早春季少し	夏季及初秋豪 雨あり	
J S	日 本 海 側	南 部		21～22	-3～-5	晩春季少し		
J M ₁		中 部	沿 岸		-4～-6	春季少し		
J M ₂					平 野		-6～-8	
J M		北 部		6 ～ 7	20内外	-5～-8	早春季少し	
J V		後志火山地域		5 ～ 6	21～22	-7～-9	春季少し	積雪多し
P V	太 平 洋 側	噴火湾沿岸		7 ～ 8	21～22	-5内外	早春季少し	
P W		胆振日高沿岸				-5～-8	冬季少し	
P M ₁		十 勝 根 釧	沿 岸	6内外	18～20	-7～-10		初夏霧多し
P M ₂			平 野			20～21		
P E ₁			沿 岸	3 ～ 6	17～19	-5～-8		初夏濃霧多し
P E ₂			平 野			-8～-11		初夏霧多し
					20内外			
O S	オク ホー ツ海 側	南 部		5 ～ 7	20内外	-7～-9	冬季春季共 少し	流水多し
O M		北 部		5 ～ 6				
I ₁	内	盆 地 部		5 ～ 6	20～22	-9～-11	早春季少し	北部積雪多し
I ₂	陸	山 岳 部		4 ～ 5	20内外	-11以下		積雪多し

(札幌管区気象台資料)

「平野」では20℃内外であり、また最寒月平均気温は「沿岸」で-5℃～-8℃、「平野」で-8℃～-10℃となっている。

年間降水量は、1,000mm～1,200mmのところが多く、また、冬期の降水量は少なく、積雪量は、太平洋側で10cm～20cm、オホーツク海沿岸で30cm～40cm、根釧台地の内陸部で50cm程度である。

なお、この地域では、春から夏に分けて海霧の侵入がはげしく、年間の霧日数は約100日にもおよぶことがあり、冷涼な気温と相まって栽培作物も限定され、この地域の農業経営を草地を主体とした酪農に特化させている。

本地域の土地の利用現況をみると、B統計の部表-1-1に示すとおり、地域の大部分を占めているのは林地で、地域面積の約60%(5,752Km²)を占め、次いで農用地が約29%(2,746Km²)、宅地及びその他が約11%(1,066Km²)となっている。

・農用地

(1) 農 地

本地域の農地面積は1,503Km²で、地域総面積の約16%、農用地面積の約55%を占めているが、本地域は、本道有数の酪農地帯であるため、農地の約96%は牧草畑で占められており、その面積は

昭和52年には43年当時の2倍の約16万1千haとなっている。

また、普通畑についても、気象条件から馬鈴しょ、てん菜等が多く栽培されており、昭和52年における馬鈴しょ及びてん菜の作付面積は、約3千haとなっている。

(2) 草 地

利用草地（永年牧草地、自然草地）と未利用草地（原野）を併せた草地面積は1,243haで、地域総面積の13%を占めており、他地域に比し未利用草地面積が著しく大きい。草地改良事業の推進、特に新酪農村の建設として近年脚光を浴びている根室区域農用地開発公団事業等により、原野や低地利用草地の牧草地化が進展している。

・林 地

林地のうち森林面積は、5,345km²で全道森林面積の約10%、地域面積の約56%を占めている。

所有区分別の森林面積をみると、国有林は2,712km²で、主として阿寒国立公園一帯から知床半島にかけて分布し、森林面積の約51%を占め、次いで私有林が1,982km²で約37%、公有林は651km²で約12%となっている。

本地域の林相は、トドマツ、エゾマツを主とする針葉樹とミズナラ、カンバ、ニレを主とする広葉樹との針広混交樹林が主である。

人工林率は、約24%で、全道平均の約23%を僅かに上回っている。

また、森林のうち、未立木地及び伐採跡地を採草放牧地に利用している面積は27km²で、特に標茶町及び別海町に分布している。

なお、本地域は、海霧の発生が多いため、983km²におよぶ保安林の約43%に当たる418km²が防霧保安林として太平洋沿岸に設定されており、海霧の内陸部への侵入防止に役立っている。

また、標茶町及び厚岸町にまたがる国有内林には、かつて広大な未立木地であった地域を、機械力によってカラマツの造林地として造成した約108km²におよぶパイロット、フォーレストがある。

・その他

本地域は、雄大な原生の秘境知床連山をはじめ阿寒湖、摩周湖など優れた自然景観に富んでいるため、国立公園をはじめ数多くの自然公園等が指定されている。

自然公園としては、阿寒国立公園（地域内約810km²）、知床国立公園（地域内約179km²）、厚岸道立自然公園（約215km²）、野付風連道立自然公園（約164km²）が、また、北海道自然環境等保全条例に基く、環境緑地保護地区が31ha、自然景観保護地区21ha、学術自然保護地区7haがそれぞれ指定されている。

このほか、特別天然記念物として釧路湿原を営巣地としているタンチョウ及び阿寒湖のマリモ（阿寒町）が指定されているほか、釧路湿原の一部約5,000ha（標茶町、釧路村、鶴居村）、霧多布泥炭形成植物群落（浜中町）等が天然記念物として指定されている。

次に、都市的な土地利用についてみると、本地域には、釧路圏都市計画区域（釧路市、釧路村、約238km²）のほか、1市5町について都市計画が指定されており、地域内の都市計画区域面積は約477km²で、地域総面積の約5%を占めている。

また、釧路市は道東唯一の20万都市であり、道東地域における産業経済の中心地としての中心機能を果たしている。

（北海道開発調整部土地水対策課 岩 間 勝 久）

4-2 土地利用可能性分級の地域別概要

土地利用可能性等級は標高、傾斜、土壌生産力可能性等級によってきめられる。本地域では、標高区分は $H_1 \sim H_4$ 、傾斜区分 $S_1 \sim S_6$ 、土壌生産力可能性等級は $P_1 \sim P_5$ と幅広く、これがため土地利用可能性等級の組み合わせは複雑であるが、これらを組み合わせることによって、1類地から8類地まで分級することができる。

類地区分を面積別でみると、最も広いのは根室、釧路両地域とも3類地で全面積の約65%（根室27%、釧路38%）、4類地は約17%（根室4%、釧路13%）、5類地は約7%（根室2%、釧路5%）、7類地は約4%（根室3%、釧路1%）、2類地は約3%（根室1%、釧路2%）、8類地約2%（根室0.3%、釧路2%）と6類地約2%（根室0.1%、釧路2%）でほぼ同様、1類地は釧路地区に僅かに存在（0.01%以下）するにすぎない。

1類地は、音別川下流の緩傾斜地に僅かに分布するに過ぎず、本図幅では論ずるに足りない。

2類地は、根室市、別海町、浜中町を除く各市町村に分布し、阿寒町、鶴居村、白糠町に分布が広く、褐色森林土、くろぼく土壌およびその混在区、累層くろぼく土壌、未熟くろぼく土壌の分布地域である。

3類地は根室、釧路地域に広く分布し、いわゆる根釧原野と呼ばれる地域がこれに属する。くろぼく土壌、累層くろぼく土壌、未熟くろぼく土壌、その湿地、褐色森林土、および低位泥炭土壌の分布地域であって、標高が400m以下、傾斜3度以下の平坦な土地で最も広く利用され草地が大半を占める。3類地全面積のうち占有面積でみると、別海町、標茶町が1,000km²以上で最も広く、ついで中標津町、厚岸町が500～650km²、根室市、鶴居村、浜中町、標津町が300～460km²の順で、音別町、羅臼町は100km²以下である。

4類地は、本地域の東部知床岳（1,254m）、硫黄山（1,563m）、俣落山（1,004m）、アトサヌブリ（574m）、雌阿寒岳（1,371m）、白糠丘陵（300～700m）の山麓及び保木山（120m）周辺地域に分布する。標高は H_1 （400m以下）、傾斜は S_4 （15～30°）が最も広い。粗粒火山放出物未熟土壌（弟子屈町）。火山放出物未熟土壌（中標津町）褐色森林土およびくろぼく土壌との混在区（中標津町、標津町、音別町、白糠町）。黒ぼく土壌、累層くろぼく土壌（釧路村、標茶町）などが主体で一部標津川、西別川下流の高位泥炭土が含まれている。占有面積の最も広いのは白糠町347km²、音別町、弟子屈町（180～210km²）、中標津町、標津町（110～142km²）が広い地域である。弟子屈町、白糠町、音別町で畑地および草地として利用されているほかは林地である。

5類地は、4類地に接し、標高が斜度の増す地域で、根室市、別海町、釧路市、釧路村、厚岸町、浜中町を除く各町村に分布する。標高は $H_1 \sim H_2$ （800m以下）、傾斜は $S_4 \sim S_5$ （15～40°）が過半を占める。土壌は褐色森林土壌、ポドゾル化土壌、およびその混在区、火山放出物未熟土壌が主体を占めている。占有面積の最も広いのは、白糠町（162km²）、阿寒町（154km²）、ついで音別町、標津町（75km²）、弟子屈町、羅臼町が42～54km²で他は27km²以下である。農地としては利用されていない。

6類地は、俣落山、カムイヌブリ岳（855m）、マクワンチサプ山（574m）、雌阿寒岳周辺および植別川、阿寒川、庶路川、音別川流域に分布し、山地では褐色森林土、ポドゾル化土壌とその混在区および粗粒火山放出物未熟土壌、低地では氾濫原砂礫地である。占有面積では弟子屈町が118km²と広いが、他は22km²以下で、根室市、別海町、釧路村、厚岸町、鶴居町には分布していない。

7類地は、雌阿寒岳、雄阿寒岳（1,371m）、カムイヌプリ、アトサヌプリ、摩周湖周辺、斜里岳（1,545m）、海別岳（1,419m）、遠音別岳（1,331m）、羅臼岳（1,661m）、知床岳などの山岳地および海岸線にそって崖地に分布する。高山性岩屑土壌—岩石地、岩屑土壌岩石地、褐色森林土（暗色系）ポドゾル化土壌、ポドゾル化土壌—高山性岩屑土壌が分布し、海岩の岩石地である。占有面積の多いのは羅臼町（186km²）、標津町（60km²）、阿寒町（34km²）である。

8類地は、未区分地で河川、湖沼と市街地であり、湖沼で最も広いのは弟子屈町の屈斜路湖（79.68km²）、ついで厚岸町の厚岸湖（31.84km²）、弟子屈町の摩周湖（19.59km²）、阿寒町の阿寒湖（12.71km²）で他の湖沼は3km²以下である。河川は他支庁管内の河川に比し小さい。

（北海道農業試験場 佐々木 龍 男）

B. 統 計 の 部

B. 統 計 の 部

1. 土地利用現況

1 - 1 市町村別土地利用現況面積内訳

区 分 市町村	農 地									草 地			
	田			畑						農 地 計	利 用 草 地		
	普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地			永 年 牧 草 地		自 然 草 地	計	
						果 樹 園	桑そ の 園他	計					
釧 路 市	—	—	—	2	15	0	—	0	17	4	5	9	
釧 路 村	—	—	—	1	5	0	—	0	6	5	4	9	
厚 岸 町	—	—	—	2	55	—	—	—	57	18	9	27	
浜 中 町	—	—	—	2	119	—	—	—	121	42	17	59	
標 茶 町	—	—	—	8	202	—	—	—	210	28	18	46	
弟 子 屈 町	—	—	—	10	63	0	—	0	73	10	10	20	
阿 寒 町	—	—	—	2	33	—	—	—	35	5	3	8	
鶴 居 村	—	—	—	0	58	—	—	—	58	15	5	20	
白 糖 町	—	—	—	2	38	0	—	0	40	7	8	15	
音 別 町	—	—	—	1	19	—	—	—	20	3	1	4	
地 域 計	—	—	—	30	607	0	—	0	637	137	80	217	
根 室 市	—	—	—	2	58	—	—	—	60	18	19	37	
別 海 町	—	—	—	7	502	—	—	—	509	50	17	67	
中 標 津 町	—	—	—	16	178	0	—	0	194	6	2	8	
標 津 町	—	—	—	2	95	—	—	—	97	10	5	15	
羅 臼 町	—	—	—	0	6	—	—	—	6	5	—	5	
地 域 計	—	—	—	27	839	0	—	0	866	89	43	132	
釧路、根室地域計	—	—	—	57	1446	0	—	0	1503	226	123	349	

- (注) 1 合計面積は、昭和51年全国都道府県市区町村別面積(建設省国土地理院：昭和51年
 2 農地は、昭和52年版北海道農業基本調査結果報告書(北海道：昭和52年2月1日現
 3 草地のうち利用草については、(注)2の資料による。
 4 林地は、昭和50年林野面積統計(農林省農林統計局統計情報部：昭和50年1月1日
 5 宅地は、昭和51年固定資産の概要調書(北海道：昭和51年1月1日現在)による。
 6 その他は、合計面積から注2～5の面積を差し引いて算出した。

(単位: Km)

地		林 地											宅 地	そ の 他	合 計	
未 利 （ 用 原 草 野 地 ）	草 地 計	森					林					除 地 ・ 困 新 困 難 地				林 地 計
		人 工 林			天 然 林			未立木・伐採跡地								
		針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採利土 草用し 放牧に る地	そ の 他	計						
44	53	7	1	8	1	38	39	—	4	4	51	102	18	28	218	
24	33	34	1	35	39	107	146	0	6	6	2	189	2	24	254	
56	83	129	1	130	41	165	206	—	26	26	46	408	2	189	739	
50	109	46	0	46	14	109	123	—	12	12	6	187	2	11	430	
192	238	222	2	224	3	285	288	7	41	48	13	573	3	83	1,107	
2	22	149	3	152	127	189	316	3	28	31	17	516	3	159	773	
19	27	109	2	111	275	217	492	0	15	15	20	638	2	36	738	
98	118	97	1	98	2	255	257	2	33	35	3	393	2	0	571	
16	31	85	3	88	195	330	525	0	15	15	16	644	3	52	770	
9	13	43	1	44	84	188	272	—	11	11	6	333	1	36	403	
510	727	921	15	936	781	1,883	2,664	12	191	203	180	3,983	38	618	6,003	
26	63	37	0	37	61	60	121	4	5	9	17	184	4	208	519	
332	399	97	3	100	0	230	230	8	19	27	38	395	9	22	1,334	
16	24	163	0	163	0	184	184	2	16	18	12	377	5	85	685	
9	24	81	0	81	58	231	289	1	18	19	48	437	1	62	621	
1	6	9	0	9	58	180	238	—	17	17	112	376	1	13	402	
384	516	387	3	390	177	885	1,062	15	75	90	227	1,769	20	390	3,561	
894	1,243	1,308	18	1,326	958	2,768	3,726	27	266	293	407	5,752	58	1,008	9,564	

10月1日現在)による。
要覧(北海道:昭和52年3月現在)によった。
在)による。

51年1月1日現在)による。
現在)による。

1 - 2. D . I . D おおむね 1 0 万人以上の都市の土地利用現況の内訳

区 分 市	市 街 地 の 内 訳						
	商 業 区	工 業 地			住 宅 区	そ の 他	
		重 工 業 地	軽 工 業 地	計		漁 業 区	運 輸 区
釧 路 市	3	114	1	15	26	1	

(注) 1 市街地の内訳別面積は、都市計画区域の市街化区域面積及び用途地域別面積を参考に以下に

- ・商 業 区……商業地域、近隣商業地域
- ・重 工 業 区……工業地域、工業専用地域
- ・軽 工 業 区……準工業地域
- ・住 宅 区……一種及び二種住居専用地域、住居地域
- ・漁 業 区 } ……臨港地区
- ・運 輸 区 }

2 市街地外の農地、草地、林地の面積及び合計面積は、表 1 - 1 市町村別土地利用現況面
差引いて一括計上した。

(単位：km²)

市 街 地 計	市 街 地 外 の 内 訳							合 計 面 積
	農 地	草 地	林 地	宅 地	公 共 用 地	そ の 他	市 街 地 外 計	
45	17	53	102	1			173	218

下により算出した。

積内訳によった。また、宅地、公共用地、その他の面積は、合計面積から上記（注） 1 2 の面積を

2. 自然的土地条件

2-1. 市町村別傾斜区分別面積内訳

(単位: km^2)

傾斜区分 市町村	S_1 0° }	S_2 3° }	S_3 8° }	S_4 15° }	S_5 20° }	S_6 30° }	S_7 40° 以上	未区分	計
釧路市	169	21	13	15	—	—	—		218
釧路村	54	59	61	60	19	—	—	1	254
厚岸町	248	234	198	27	—	—	—	32	739
浜中町	296	99	32	—	—	—	—	3	430
標茶町	397	267	372	53	5	5	—	8	1,107
第子屈町	186	69	189	58	105	58	9	99	773
阿寒町	87	116	205	185	84	45	—	16	738
鶴居村	150	114	249	36	16	6	—	—	571
白糠町	69	91	117	111	224	158	—	—	770
音別町	47	6	54	50	176	70	—	—	403
地域計	703	1,076	1,490	595	629	342	9	159	6,003
根室市	331	78	4	—	—	—	—	4	417
別海町	1,188	141	5	—	—	—	—	0	1,334
中標津町	450	67	72	51	40	5	—	—	685
標津町	297	49	53	62	53	100	7	—	621
羅臼町	17	40	74	41	122	103	5	—	402
地域計	2,283	375	208	154	215	208	12	4	3,459
釧路、根室地域計	3,986	1,451	1,698	749	844	550	21	163	9,462

2-2. 市町村別標高区分別面積内訳

(単位: km²)

標高区分 市町村	0m	100m	200m	400m	600m	800m	1,000m	1,500m	未区分	計
	100m	200m	400m	600m	800m	1,000m	1,500m	以上		
釧路市	206	9	3	—	—	—	—	—	—	218
釧路村	201	52	—	—	—	—	—	—	1	254
厚岸町	675	32	—	—	—	—	—	—	32	739
浜中町	427	—	—	—	—	—	—	—	3	430
標茶町	696	286	96	16	5	—	—	—	8	1,107
第子屈町	21	233	278	106	31	5	—	—	99	773
阿寒町	107	154	125	185	115	29	7	—	16	738
鶴居村	259	139	115	44	14	0	0	—	—	571
白糠町	190	156	247	140	29	6	2	—	—	770
音別町	129	99	129	42	4	—	—	—	—	403
地域計	2,911	1,160	993	533	198	40	9	—	159	6,003
根室市	413	—	—	—	—	—	—	—	4	417
別海町	1,178	156	—	—	—	—	—	—	—	1,334
中標津町	255	161	157	80	21	10	1	—	—	685
標津町	245	75	122	108	50	12	9	—	—	621
羅臼町	46	61	118	76	50	28	22	1	—	402
地域計	2,137	453	397	264	121	50	32	1	4	3,459
釧路、根室地域計	5,048	1,613	1,390	797	319	90	41	1	163	9,462

2-3. 市町村別地形区分別面積内訳

市町村 地形区分	山 地 ・ 火 山 地					丘 陵 地		
	大起伏	中起伏	小起伏	山麓地	計	大起伏	小起伏	計
釧路市	—	—	1	—	1	13	18	31
釧路村	—	—	—	—	—	52	126	178
厚岸町	—	—	—	—	—	18	400	418
浜中町	—	—	—	—	—	—	68	68
標茶町	—	—	22	50	72	41	697	738
第子屈町	—	110	180	181	471	68	42	110
阿寒町	8	68	290	23	389	216	—	216
鶴居村	—	2	82	—	84	136	191	327
白糠町	2	5	507	—	514	111	51	162
音別町	—	—	229	—	229	54	58	112
地域計	10	185	1,311	254	1,760	709	1,651	2,360
根室市	—	—	—	—	—	—	—	—
別海町	—	—	—	—	—	—	4	4
中標津町	0	18	125	34	177	66	—	66
標津町	17	89	172	34	312	—	—	—
羅臼町	102	185	70	4	361	—	—	—
地域計	119	292	367	72	850	66	4	70
釧路根室地域計	129	477	1,678	326	2,610	775	1,655	2,430

(单位: 亩)

台 地 • 段 丘				低 地				未 区 分	計
砂 礫	ロ - ム	岩 石	計	扇状地性	三角洲性	自然堤防 砂 州	計		
—	37	—	37	7	127	15	149	—	218
—	17	—	17	5	53		58	1	254
—	167	—	167	53	69		122	32	739
—	276	—	276	22	56	5	83	3	430
57	78	—	135	79	75		154	8	1,107
30	3	—	33	51	9		60	99	773
16	45	—	61	51	5		56	16	738
—	43	—	43	40	77		117	—	571
—	12	—	12	57	20	5	82	—	770
—	4	—	4	33	25	—	58	—	403
103	682	—	785	398	516	25	939	159	6,003
—	357	1	358	—	48	7	55	4	417
48	1,112	—	1,160	47	106	17	170	—	1,334
136	227	14	377	42	22	1	65	—	685
7	223	—	230	15	48	16	79	—	621
7	28	3	38	3	—	—	3	—	402
198	1,947	18	2,163	107	224	41	372	4	3,459
301	2,629	18	2,948	505	740	66	1,311	163	9,462

2 - 4. 市町村別表層地質分布面積内訳 (1)

市 町 村 名	未 固 結 堆 積 物								
	1 粘 土 礫・砂	2 砂	3 粘 土 (ツルト)	4 泥 炭	5. 礫	6 碎屑物	7 礫・砂	8 粘 土 砂・礫	計
釧 路 市	3343	2365		9039			2123	2155	19025
釧 路 村	3827			4005			089	6253	14174
厚 岸 町	3675			11692			242	1669	299
浜 中 町	812	990		7424			6661	11233	2712
標 茶 町	1857			22270		294	2601	28542	55564
弟 子 屈 町	8778			200		470	1782	150	11380
阿 寒 町	7323			648		130	4254	7631	19986
鶴 居 村	4850			8835			5576	14345	33606
白 糠 町	9044	878		1177			2312	856	14267
音 別 町	4924	215		644			751		6534
地 域 計	48433	4448		65934		894	26391	87855	233955
根 室 市	958	1150		5389			15176	9135	31808
別 海 町	12323			14896					27219
中 標 津 町	6240			1768		2100			10108
標 津 町	3827			3838		2417	13958		24040
羅 白 町	2018					1631	3166	429	7244
地 域 計	25366	1150		25891		6148	32300	9564	100419
合 計	73799	5598		91825		7042	58691	97419	334374

(単位: 1 cm^2)

半 固 結 ～ 固 結 堆 積 物										
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
礫 岩	砂 岩	泥 岩	砂岩・泥 岩 瓦 層	礫 岩 砂 岩	泥 岩	粘板岩	砂岩・泥 岩 瓦 層	珉岩質 岩 石 (チャート)	石灰岩	
		1083	1293							2376
2659			3727	189	2370		2136			11081
357		798	819	5471	10722		6752			24919
				1178			4187			5365
			084	126	031					241
		821	641							1462
249		7014	19138		1026					27427
			1483							1483
535	300	22713	23890	589	13015					61042
312		940	17960	517	5577					33766
4112	300	41829	69035	807	32741		13075			169162
				479			7103			7582
		478								478
		1006								1006
		3252	054							3306
		4736	054	479			7103			12372
4112	300	46565	69089	8549	32741		20178			181534

2 - 4. 市町村別表層地質分布面積内訳 (2)

市 町 村 名	火 山 性 岩 石										
	19. 火山灰	20. ローム	21. 軽石流 堆積物	22. 火 山 碎屑物	23. 凝灰岩 質岩石	24. 火山角礫 岩質岩石	25. 流紋岩 質岩石	26. 安山岩 質岩石	27. 玄武岩 質岩石	28. 輝緑岩質 凝 灰 岩	計
釧 路 市			399								399
釧 路 村								045			045
厚 岸 町	13482										13482
浜 中 町	5761								4454		10215
標 茶 町	35182		10721		7668			524			54095
弟 子 屈 町	20758		15744		11650			6406			54558
阿 寒 町				1235	7821			15731			24787
鶴 居 村			1353	5684	14162			812			22011
白 糠 町					300			1391			1691
音 別 町											
地 域 計	75183		28217	6919	41601			24909	4454		181283
根 室 市						494			1416		1910
別 海 町	106181										106181
中 標 津 町	42732		062		4586	1892	915	7727			57914
標 津 町	10918				13004	3859		6006	3267		37054
羅 白 町				1502	8714	6074		13145	215		29650
地 域 計	159831		062	1502	26304	12319	915	26878	4898		232709
合 計	235014		28279	8421	67905	12319	915	51787	9352		413992

(単位: 1 cm²)

深 成 岩 類					変 成 岩 類				そ の 他 湖・沼 河川等	合 計	備 考
29 斑 岩	30 花崗岩質 岩 石	31 はんれ い 岩 質岩石	32 蛇紋岩 質岩石	計	33 ホルン フェルス	34 結晶片岩 質 岩 石	35 片麻岩 質岩石	計			
										218	
									1	254	
									32	739	
									3	430	
									8	1,107	
									99	773	
									16	738	
										571	
										770	
										403	
									159	6,003	
									4	417	
										1,334	
										685	
										621	
										402	
									4	3,459	
									163	9,462	

2 - 5. 市町村別土壤統群分布面積内訳 (1)

市 町 村	岩屑土、岩石地			未 熟				
	高山性 岩屑壤 岩石地	岩屑土 壤 岩石地	計	残積性 未熟土 壤	砂丘未 熟土 壤	湿性砂 丘未熟 土 壤	火山放 出物未 熟土 壤	粗粒火 山放出 物未熟 土 壤
釧路市	—	124	124	—	047	419	—	—
釧路村	—	164	164	—	—	—	—	—
厚岸町	—	602	602	—	452	—	—	—
浜中町	—	488	488	—	338	608	—	—
標茶町	—	—	—	—	—	—	1112	111
弟子屈町	027	566	593	—	068	—	254	17117
阿寒町	139	—	139	—	—	—	5904	—
鶴居村	—	—	—	—	—	—	—	—
白糠町	068	—	068	236	248	354	—	—
音別町	—	—	—	247	100	—	—	—
釧路地域計	234	1944	2178	483	1253	1381	7270	17228
根室市	—	1176	1176	—	1241	083	—	—
別海町	—	—	—	—	1261	1113	—	—
中標津町	—	085	085	—	—	—	4618	330
標津町	025	6808	6833	153	609	—	—	—
羅臼町	254	8216	8470	—	368	—	—	—
根室地域計	279	16285	16564	153	3479	1196	4618	330
釧路、根室地域計	513	18229	18742	636	4732	2577	11888	21846

(単位: Km)

土		くろぼく土壌								
火山 放出物 未熟土 壤粒	湿性 粗粒	計	果屑 くろぼく 土壌	湿性 くろぼく 土壌	aくろ ぼく土 壤	a湿性 くろぼ く土壌	未熟 くろぼ く土壌	湿性未 熟くろ ぼく土 壌	a淡色 くろぼ く土壌	計
—	466	3421	—	—	—	—	—	—	—	3421
—	—	15750	0.07	1912	—	—	—	—	—	17669
—	452	8003	7676	31770	—	3847	—	—	—	51296
—	946	21708	4327	6574	291	—	0.69	—	—	32969
—	1223	550	—	70048	357	17107	—	—	—	88662
1029	4868	567	429	4962	—	28583	1386	—	—	35927
—	5904	14216	737	2798	—	017	—	—	—	17768
—	—	30737	2129	2662	717	—	—	222	—	36467
—	838	3877	—	3816	—	445	401	—	—	8539
—	347	—	—	1450	549	—	—	—	—	1999
1029	28644	98829	15305	125992	1914	49999	1856	222	—	294717
—	1324	13185	19083	—	—	—	—	—	—	32268
—	2374	27840	8473	36468	1697	30651	1072	—	—	106201
—	4948	5194	—	29245	205	12512	—	—	—	47156
—	762	6957	—	17235	—	—	191	—	—	24383
—	368	—	—	484	—	—	—	—	—	484
—	9776	53176	27556	83432	1902	43163	1263	—	—	210492
1029	38420	152005	42861	209424	3816	93162	3119	222	—	505209

2 - 5. 市町村別土壌統群分布面積内訳 (2)

市 町 村	褐 色 森 林 土							計
	褐色 森林土 壤 I	褐色 森林土 壤 II	褐色 森林土 壤 III	褐色 森林土 壤 IV	く褐色 ろ色森 ぼく林 土土 壤 壤	ポ褐色 ドゾル 化林土 壤 壤	ポ暗 ド色 ゾ系 ル褐色 化森林 土土 壤 壤	
釧 路 市	—	1 502	—	—	2 729	—	—	4 231
釧 路 村	—	—	—	—	—	—	—	—
厚 岸 町	—	—	—	—	8 66	—	—	8 66
浜 中 町	—	—	—	—	—	—	—	—
標 茶 町	—	—	—	—	2 176	—	—	2 176
弟 子 屈 町	738	—	189	—	7 283	793	942	9 945
阿 寒 町	1 700	9 050	127	—	12 716	4 836	3 103	31 532
鶴 居 村	—	—	—	—	1 1041	—	—	1 1041
白 糠 町	1 675	3 5264	535	199	14 133	5545	1 326	58 677
音 別 町	304	2 1001	2 285	—	6 209	130	1 918	31 847
釧路地域計	4 417	6 6817	3 136	199	5 7153	11 304	7 289	150 815
根 室 市	—	—	—	—	—	—	—	—
別 海 町	—	—	—	—	—	—	—	—
中 標 津 町	3 408	—	—	—	55.95	—	1 139	10 142
標 津 町	110	765	—	—	17 433	—	1568	19 876
羅 白 町	—	2 520	—	—	154.02	1 237	730	19 889
根室地域計	3 518	3 285	—	—	3 8430	1 237	3 437	49 907
根室、釧路地域計	7 935	7 0102	3 136	199	9 5583	1 2541	1 0726	200 222

(単位: Km)

ボ ド ゾ ル				褐色低地土			灰色低地土			
ボ ド ゾ ル 化 土 壤 I	ボ ド ゾ ル 化 土 壤 II	高 山 性 岩 屑 土 壤	ボ ド ゾ ル 化 土 壤 計	褐 色 低 地 土 壤	粗 粒 褐 色 低 地 土 壤	計	細 粒 灰 色 低 地 土 壤	灰 色 低 地 土 壤	粗 粒 灰 色 低 地 土 壤	計
—	—	—	—	1262	—	1262	—	2560	—	2560
—	—	—	—	045	—	045	—	552	818	1365
—	—	—	—	951	—	951	278	—	4941	5219
—	—	—	—	—	—	—	—	—	317	317
—	—	—	—	1515	1403	2918	—	336	935	1271
—	—	—	—	815	1085	1900	—	401	—	401
1228	6380	3364	10972	2068	1678	3746	—	978	620	1598
—	—	—	—	—	840	840	—	1344	—	1344
523	672	305	1500	2679	1314	3993	1781	—	—	1781
—	—	—	—	1066	997	2063	—	2285	—	2285
1751	7052	3669	12472	10401	7317	17718	2059	8456	7625	18141
—	—	—	—	—	—	—	—	—	759	759
—	—	—	—	—	2917	2917	—	—	643	643
342	—	—	342	—	3007	3007	—	—	1044	1044
—	—	2964	2964	—	2447	2447	—	—	2710	2710
—	—	10827	10827	—	120	120	—	—	042	042
342	—	13791	14133	—	8491	8491	—	—	5198	5198
2093	7052	17460	26605	10401	15808	26209	2059	8456	12828	23339

2 - 5. 市町村別土壌統群分布面積内訳 (3)

市 町 村	灰 色 台 地 土		グ ラ イ 土			泥
	灰 色 台 地 土 壤	計	細 粒 グ ラ イ 土 壤	粗 粒 グ ラ イ 土 壤	計	高 位 泥 炭 土 壤
釧 路 市	—	—	—	—	—	—
釧 路 村	329	329	986	182	1168	—
厚 岸 町	813	813	—	—	—	192
浜 中 町	—	—	—	—	—	302
標 茶 町	—	—	—	—	—	—
弟 子 屈 町	—	—	—	—	—	—
阿 寒 町	—	—	—	—	—	—
鶴 居 村	—	—	—	—	—	—
白 糠 町	—	—	—	—	—	—
音 別 町	—	—	—	—	—	—
釧路地域計	1142	1142	986	182	1168	494
根 室 市	—	—	—	—	—	—
別 海 町	—	—	—	5677	5677	874
中 標 津 町	—	—	—	083	083	038
標 津 町	—	—	—	—	—	334
羅 臼 町	—	—	—	—	—	—
根室地域計	—	—	—	5760	5760	1246
根室、釧路地域計	1142	1142	986	5942	6928	1740

(単位: Km³)

炭 土			未 区 分 地				総 計 面 積
中 間 泥 炭 土 壤	低 位 泥 炭 土 壤	計	汜 濫 原 砂 礫 地	市 街 地	河 川 、 湖 沼	計	
012	7924	7936	—	800	—	1800	21800
063	4497	4560	—	—	100	100	25400
—	10309	10501	—	—	3200	3200	73900
1728	5806	7836	144	—	300	444	43000
—	14250	14250	—	—	800	200	110700
—	166	166	—	—	9900	9900	77300
—	541	541	—	—	1600	1600	73800
329	7079	7408	—	—	—	0	57100
—	952	952	652	—	—	652	77000
—	591	591	1168	—	—	1168	40300
2132	52239	54741	1964	1800	15900	19064	600300
054	5719	5773	—	—	400	400	41700
460	14254	15588	—	—	—	—	133400
937	718	1693	—	—	—	—	68500
1614	177	2125	—	—	—	—	62100
—	—	—	—	—	—	—	40200
3065	20868	25179	—	—	400	400	345900
5197	73107	79920	1964	1800	16300	19464	946200

3. 土地利用可能性分級

3 - 1. 市町村別土地利用可能性分級別面積内訳

市町村 土地利用可能性分級	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
釧 路 市	—	385	16765	2334
釧 路 村	—	293	16133	8223
厚 岸 町	—	803	64809	4166
浜 中 町	—	—	38570	2550
標 茶 町	—	1518	100688	6079
弟 子 屈 町	—	1066	29235	18233
阿 寒 町	—	5593	23389	22000
鶴 居 村	—	5131	45748	5455
白 糠 町	—	5373	18760	34748
音 別 町	0.71	1213	8790	20843
地 域 計	0.71	21375	362887	1,24631
根 室 市	—	—	37737	257
別 海 町	—	—	1,285.96	3678
中 標 津 町	—	2090	51516	10877
標 津 町	—	2738	31023	14163
羅 臼 町	—	1909	6555	8915
地 域 計	—	6737	2,554.27	37890
根室、釧路地域計	0.71	28112	618314	1,625.21

(単位: ㎡)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地	合 計
—	328	188	1800	21800
—	—	451	300	25400
—	—	722	3400	73900
—	207	1173	500	43000
1237	078	—	1100	110700
5441	11841	1284	10200	77300
15388	2202	3428	1800	73800
566	—	—	200	57100
16160	1208	451	300	77000
7562	1641	080	100	40300
46354	17505	7777	19700	600300
—	—	2906	800	41700
—	—	226	900	133400
2657	729	131	500	68500
7516	517	6043	100	62100
4154	—	18567	100	40200
14327	1246	27873	2400	345900
60681	18751	35650	22100	946200

3 - 2. 土地利用可能性分級と自然条件との関連

3 - 2 - 1 土地利用可能性分級と地形区分との関連

地形区分 土地利用可能性分級	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
山地・火山地	—	4707	55822	1,11221
丘陵地	0.71	10848	1,96343	33045
台地・段丘	—	4829	2,51771	3013
低地	—	7728	1,14378	15242
未区分地	—	—	—	—
合計	0.71	28112	6,18314	1,625.21

3 - 2 - 2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

傾斜 土地利用可能性分級	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
0°～3°(S ₁)	0.71	10571	3,51712	20483
3°～8°(S ₂)	—	17541	1,13637	3935
8°～15°(S ₃)	—	—	1,52965	3152
15°～30°(S ₄)	—	—	—	1,34951
30°～40°(S ₅)	—	—	—	—
40°～(S ₆)	—	—	—	—
未区分計	—	—	—	—
合計	0.71	28112	6,18314	1,625.21

(単位: Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計	備 考
55363	14176	30393	—	271682	
1319	451	796	—	242873	
2429	2913	4083	—	269038	
1570	1211	378	—	140507	
—	—	—	22100	22100	
60681	18751	35650	22100	946200	

(単位: Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計	備 考
1146	2156	5147	—	391286	
4378	2939	2613	—	145043	
6767	5018	5051	—	172953	
6297	7419	10059	—	158726	
42093	1219	10670	—	53982	
—	—	2110	—	2110	
—	—	—	22100	22100	
60681	18751	35650	22100	946200	

3 - 2 - 3 土地利用可能性分級と標高区分との関連

標高区分 土地利用可能性分級	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
低暖地帯(H ₁)	0.71	27720	605113	123639
山間地帯(H ₂)	—	392	13201	38882
高冷地帯(H ₃)	—	—	—	—
生産限界 外地帯(H ₄)	—	—	—	—
未 区 分 地	—	—	—	—
合 計	0.71	28112	618314	1,625.21

3 - 2 - 4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連

土壌生産力可能性 土地利用可能性分級	1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地
はなはだ良い(P ₁)	0.71	1188	10630	4141
やや良い(P ₂)	—	26924	55003	57788
やや劣る(P ₃)	—	—	5,52681	36147
劣 る(P ₄)	—	—	—	24445
はなはだ劣る(P ₅)	—	—	—	—
岩 石 地(P ₀)	—	—	—	—
未 区 分 地	—	—	—	—
合 計	0.71	28112	618314	1,625.21

(単位: Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計	備 考
18982	12214	10804	—	817743	
40934	7778	16916	—	113103	
765	3759	4507	—	9031	
—	—	3923	—	3923	
—	—	—	22100	22100	
60681	18751	35650	22100	946200	

(単位: Km²)

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	合 計	備 考
16554	—	—	—	72584	
14472	243	742	—	155172	
6677	132	017	—	595654	
22978	3384	184	—	50991	
—	14992	233	—	15225	
—	—	34474	—	34474	
—	—	—	22100	22100	
60681	18751	35650	22100	946200	

3 - 3. 土地利用可能性分級別主要地域の概要

地 域 名		1 類 地	2 類 地	3 類 地
		音 別	阿 寒	別 海
地 形	傾 斜 谷 密 度	0° ~ 3° (0 ~ 14)	0° ~ 8° (5 ~ 15)	0° ~ 8° (0 ~ 9)
	標 高 (植 生 限 界)	0 m ~ 400 m	0 m ~ 400 m	0 m ~ 400 m
表 層 地 質	岩 石 の 種 類 岩 石 の か た さ 時 代	砂岩、泥岩 軟 - 硬 新 生 代	砂、礫、火山性岩石 軟 - 硬 新 生 代	砂、泥炭、火山灰 軟 新 生 代
土 壤	農 地 土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 分 級		くろぼく土壌 未熟くろぼく土壌 湿性未熟くろぼく土壌	くろぼく土壌 未熟くろぼく土壌 累層くろぼく土壌 低位泥炭土壌
	林 地 土 壤 統 群 地 位 級	褐色森林土壌 くろぼく土壌	褐色森林土壌 褐色森林土壌 - くろぼく土壌	褐色森林土壌 未熟くろぼく土壌
水 利 用	地 表 水	○	○	○
	地 下 水	×	○	○
	天 水	×	×	×
気 候 区 分		大 平 洋 側 - 根 釧 ・ 平 野 部		
面 積	土 地 利 用 可 能 性 分 類 地 区 別 面 積	0.71	281.12	618.314
	支 庁 合 計 (A)			
	当 該 地 域 類 地 別 面 積 (B)	0.71	55.93	128.596
	% (B / A)	100%	19.9	20.8

4 類 地	5 類 地	6 類 地	7 類 地	備 考
白 糠 A	白 糠 D	弟 子 屈	羅 臼	
15° ～ 30° (5 ～ 16)	15° ～ 40° (8 ～ 16)	8° ～ 30° (0 ～ 8°) (2 ～ 9)	8° ～ 40°＜ (8 ～ 16)	
0 m ～ 400 m	400 m ～ 800 m	800 m ～ 1,000 m (0 m ～ 400 m)	400 m ～ 1,000 m＜	
砂岩、泥岩 軟 — 硬 新 生 代	砂岩、泥岩 軟 — 硬 中生代—新生代	火山性岩石 硬 新 生 代	火山性岩石 硬 新 生 代	
火山放出物未熟土壌 くろぼく土壌 果層くろぼく土壌 高位泥炭土		粗粒火山放出物未熟 土壌 泥濫原砂礫地		
火山放出物未熟土壌 褐色森林土壌—くろ ぼく土壌	褐色森林土 ポドゾル化土壌 褐色森林土壌（暗色） —ポドゾル化土壌 火山放出物未熟土壌	褐色森林土壌 ポドゾル化土壌	高山性岩屑土壌—岩 石地 褐色森林土壌（暗色） —ポドゾル化土壌 ポドゾル化土壌高山性岩 屑土壌—岩石地）	
○ ○ ×	○ ○ ×	× ○ ×	× × ×	
	太 平 洋 側 — 根 釧 ・ 沿 岸			
1 6 2 5.2 1 3 4 7 4 8 2 1 4	6 0 6 8 1 1 6 1 6 0 2 6 6	1 8 7 5 1 1 1 8 4 1 6 3 1	3 5 6 5 0 1 8 5.6 7 5 2 1	

3-4 市町村別土地利用可能性分級別内訳

市町村名	類 地 区 分		土 地 利 用 の 現 況													備 考	
			水 田	畑				草 地		林 地					空地・その他 土地利用 占 有 率		
	土 地 利 用 占 有 率	平均収 穫 量 率		普 通 畑		樹 園 地		土 地 利 用 占 有 率	草地の種 類および 平均収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林					
				土 地 利 用 占 有 率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率			土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率				
	類 地 区 分 および 包含さ れる 示 性 式	面 積 ㎡	土 地 利 用 占 有 率	平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	草地の種 類および 平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率			
鉧路市	1	—													桜田地区畑地 帯総合土地改 良事業		
	2	112 122	4		(D)	だいこん 90			A	牧草 90							
	8	118 128 182 188	168			(D)	とうもろこし 95			C	牧草 90	D	カラマツ 100	D		広葉樹 100	鉧路保原 飛行場 ゴルフ場 } C
	4	114 141 142 148	28										A	広葉樹 80			
	5	—															
	6	115	8						A	牧草 85							原 野 C
	7	110	2										A	針葉樹 10			
	8		18														鉧路市街地 鉧路西港
市 町 村 計		218															
鉧路村	1	—													連古武湖		
	2	122	8										A	広葉樹 100			
	8	118 128 182 188	161			(D)	だいこん 90			D	牧草 75	D	トドマツ 100	A		針葉樹 90 広葉樹 90	原 野 C
	4	114 124 184 142 148	82										A	針葉樹 80 広葉樹 80			
	5	—															
	6	—															
	7	110 180 140	5										A	針葉樹 15 広葉樹 10			
	8		8														
市 町 村 計		254															

注 1 8 地区は、湖沼、河川、市街地である。

2 土地利用占有率は、次の区分による。

A (75%以上)、B (74~50%)、C (49~25%)、D (25%未満)、(D)は5%未満であるが、特記すべきものを示した。

3 水田、畑、草地の平均収穫量率については、農林統計を参考に関係機関と協議して推定した。

4 林地の樹種及び平均収穫量率は、縮尺20万分の1土地利用現況図（留萌・宗谷地域）及び現存植生図（昭和50・51年）を参考に関係機関と協議して推定した。

市町村名	類 地 区 分		土 地 利 用 の 現 況														備 考	
			水 田		畑				草 地		林 地							空地・その他
											林 地							
											人 工 林		天 然 林					
類地区分および包含される示性式	面 積	土 地 利 用 占有率	平 均 収 穫 量 率	普 通 畑	樹 園 地	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	土 地 利 用 占有率			
厚 岸 町	1		—														太田地区細地帯総合土地改良事業	
	2	112 122	8						A	牧草 105								
	3	113 123 132 133	648						D	牧草 105	D	カラマツ 90	A	針葉樹 80 広葉樹 70		自衛隊用地 D		
	4	114 124 134 142 143 144	42										A	針葉樹 80 広葉樹 70				
	5		—															
	6		—															
	7	110 120 130 140	7						A	自然草地 80								
	8		34													厚岸湖		
市 町 村 計		739																
浜 中 町	1		—														茶内地区国営総合農地開発事業	
	2		—															
	3	113 123 133	386						C	牧草 110		カラマツ 100	A	針葉樹 90 広葉樹 90				
	4	114	25													原野 A		
	5		—															
	6	115	2						A	自然草地 70								
	7	110 120	12						A	自然草地 70								
	8		5													火敷布沼		
市 町 村 計		480																

市町 村 名	額地区分 面積 占 有 率	土 地 利 用 の 現 況												備 考	
		水 田		畑				草 地		林 地					空地・その他
		土 地 利 用	平 均 収 穫 量 率	苜 蓿		樹 木		土 地 利 用	草 地 の 種 類 および 平均収獲 量 率	人 工 林		天 然 林			土 地 利 用
				土 地 利 用	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率			土 地 利 用	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率		
1	—														阿部内地区国 営農地開発事 業
2	112. 122 15							A	牧草 105						
3	113. 123. 132. 133. 233. 1,007			(D)	はげし 60			C	牧草 105	D	カラマツ 100	A	針葉樹 90 広葉樹 80	ゴルフ場	
4	142. 143. 233. 242. 61			(D)	ビート 70			C	牧草 100	D	カラマツ 85	A	針葉樹 80 広葉樹 70		
5	234. 244. 252. 12									A	カラマツ 65	C	広葉樹 55		
6	235. 1											A	広葉樹 40		
7	—														
8	11													シラルトロ沼 畔路湖	
市 町 村 計 1,107															
1	—														最栄利別地区 直轄明渠排水 事業
2	112 11							A	牧草 110						
3	113. 123. 132. 133. 222. 232. 292			D	はげし 95			C	牧草 100			B	針葉樹 80 広葉樹 70		
4	114. 124. 134. 142. 143. 144. 223. 233. 242. 243. 182			(D)	ビート 80			D	牧草 105	C	トドマツ 70 アエマツ 60	A	針葉樹 70 広葉樹 60		
5	152. 153. 234. 244. 252. 253. 254. 55									C	トドマツ 65 エゾマツ 55	A	針葉樹 50 広葉樹 45		
6	115. 125. 135. 145. 155. 225. 235. 245. 255. 344. 352. 354. 118									C	トドマツ 40 エゾマツ 85	A	針葉樹 45 広葉樹 40		
7	150. 160. 165. 240. 250. 260. 265. 18											A	広葉樹 10		
8	102													旭斜路湖 畔周湖	
市 町 村 計 778															

市 町 村 名	類 地 区 分 領地区分および包含される示性式	面 積 ha	土 地 利 用 の 現 況														備 考
			水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他		
					普 通 畑		樹 園 地				人 工 林		天 然 林				
			土 地 利 用 占 有 率	平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 獲 量 率	土 地 利 用 占 有 率		
阿 寒 町	1	—														阿寒地区草地 開発事業	
2	112 122	5 6						D	牧草 95	C	カラマツ 70	B	広葉樹 60				
3	113 123 131 132 133 212 222 231 232	23 4		(D)	とうもろこし 90			D	牧草 92	D	トドマツ 60 エゾマツ 55 カラマツ 55	A	広葉樹 55	ゴルフ場 スキー場			
4	114 124 141 142 143 223 233 241 242 243	22 0								D	トドマツ 50 エゾマツ 45	A	針葉樹 50 広葉樹 40				
5	151 152 214 224 234 244 251 252 253 254 333 334	15 4								D	エゾマツ 80	A	針葉樹 40 広葉樹 85	スキー場			
6	324 334 344 353 354	2 2										A	針葉樹 80				
7	220 230 240 250 340 350 440 444 450	3 4										A	針葉樹 45				
8		1 8												阿寒湖 下ノ湖			
市 町 村 計		7 8 8															
鶴 居 町	1	—														中雪郷地区国 営農地開発事 業	
2	112 122	5 1						D	牧草 100			A	広葉樹 70				
3	113 123 132 133 222 232	4 5 7		(D)	ビート 70 ばらいし 55			D	牧草 100	D	カラマツ 70 エゾマツ 60	A	広葉樹 60	ゴルフ場 原 野 } D			
4	114 142 143 242	5 5		(D)	とうもろこし 70					D	トドマツ 50	A	広葉樹 50				
5	152 252	6								A	トドマツ 40 エゾマツ 85 カラマツ 45						
6	—	—															
7	—	—															
8		2															
市 町 村 計		5 7 1															

市町村名	類 地 区 分 類地区分および包含される示性式	面積 畝	土 地 利 用 の 現 況												備考		
			水 田		畑				草 地		林 地					空地・その他 土地利用 占有率	
			土 地 利 用 占有率	平均収 穫 量 率	普 通 畑 土 地 利 用 占有率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率	樹 園 地 土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	草 地 の 種 類および 平均収穫 量率	人 工 林 土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	天 然 林 土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率			
白旗町	1	—															
	2	112 121 122 221	54							C	牧草 105			B	広葉樹 90		
	3	113 123 131 132 133 231	188			(D)	とうもろこし 90			D	牧草 103	D	トドマツ 90	A	広葉樹 80		
	4	114 141 142 143 223 233 241 243	347							(D)	牧草 105	D	トドマツ 80 カラマツ 80	A	針葉樹 70 広葉樹 65		
	5	151 152 153 234 244 251 253 254	162										トドマツ 70	A	針葉樹 60 広葉樹 50		
	6	115 125 135 145 334 354	12											A	広葉樹 80		
	7	330 340 440 450	4											A	広葉樹 15		
	8	7															
市 町 村 計		770															
別所町	1	111	1														風速別地区直轄 明渠排水事業
	2	112 121 122	12														
	3	113 131 132 133	88			(D)	とうもろこし 85			D	牧草 105	D	カラマツ 90	A	広葉樹 80		
	4	141 142 143 144 241	208									D	トドマツ 80	A	針葉樹 70 広葉樹 60		
	5	151 152 153 244 251 253 254	76											A	広葉樹 55		
	6	115 135 145 155	16											A	広葉樹 40		
	7	130 140	1													原野 A	
	8	1															
市 町 村 計		408															

市町村名	類地区分 領地区分および包含される示性式	面積 ha	土 地 利 用 の 現 況														備 考
			水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他		
			土 地 利 用 占有率	平 均 収 穫 量 率	普 通 畑	樹 園 地	土 地 利 用 占有率	草地の種類および 平均収穫 量 率	人 工 林	大 然 林	土 地 利 用 占 有 率						
1		—			土 地 利 用 占有率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率				
根室市	1		—													根室区域農用地開発公団事業 (新船農村)	
	2		—														
	113 123 133	877						D	牧草 82	C	トドマツ 60 アカエゾマツ 60	A	針葉樹 55 広葉樹 50				
	114	3												原野 A			
	5	—															
	6	—															
	110 120	29												原野 A			
	8	8												温根沼			
市 町 村 計		417															
西別町	1		—													西別地区国営農地開発事業 根室区域農用地開発公団事業 (新船農村)	
	2		—														
	113 123 133	1286			D	とうもろこし 95 ビート 60		B	牧草 95	D	カラマツ 90	C	広葉樹 70	自衛隊演習場D			
	114	37			D	とうもろこし 90		B	牧草 90	D	トドマツ 70 カラマツ 80	C	広葉樹 55				
	5	—															
	6	—															
	110	2												原野 A			
	8	9															
市 町 村 計		1334															

市町村名	類 地 区 分		土 地 利 用 の 現 況														備 考	
			水 田		畑				草 地		林				空地・その他			
	面積 利用 占 有 率	平均収 穫 量 率	普 通 畑 利 用 占 有 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土地利用率 占 有 率					
														人 工 林	天 然 林			
1		—																豊岡地区直轄排水事業校舎区域農用地（新酪農村）
2	112 122	2 1									A	カラマツ 110 アカエゾマツ 80						
中 8	118 123 132 133 222 232	5 1 5		(D)	とうもろこし 95 ビート 65			C	牧草 95	D	トドマツ 90 カラマツ 100	B	広葉樹 75					
標 4	114 124 134 112 144 223 233 242 243	1 0 9						(D)	牧草 90	D	トドマツ 80 カラマツ 90	A	針葉樹 60 広葉樹 60					
津 5	214 224 234 244 252 254 332 343	2 7								D	トドマツ 70 カラマツ 80	A	針葉樹 50 広葉樹 40					
町 6	235 344 352 354	7								D	カラマツ 65	A	広葉樹 35					
7	240 444	1										A	広葉樹 20					
8		5																
市 町 村 計		6 8 5																
1		—															標津北部地区 畑地帯総合土 地改良事業	
2	112 122	2 7										A	針葉樹 80 広葉樹 70					
標 3	113 123 132 222 232	3 1 0		(D)	とうもろこし 80 はなひし 80			B	牧草 90	D	トドマツ 100 カラマツ 110	C	針葉樹 65 広葉樹 60					
4	114 142 242 243	1 4 2						D	自然草地 65	B	トドマツ 90 エゾマツ 70	C	針葉樹 40 広葉樹 30					
津 5	152 154 234 252 254 332 343	7 5										A	広葉樹 20					
町 6	115 334 344 352 354	5										A	広葉樹 20					
7		6 1										A	針葉樹 10 広葉樹 10					
8	110 120 130 140 150 162 230 240 250 260 262 264 330 340 350 440 448 450	1																
市 町 村 計		6 2 1																

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利 用 の 現 況													備 考
			水 田		畑				草 地		林 地				空地・その他	
	普 通 畑	樹 園 地			土 地	草地の種	人 工 林	天 然 林	土地利用							
	類地区分および包含される示性式	面積 ha	土地利用 占有率	平均収 穫 量 率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	種類および 平均収穫 量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	
1		—														
2	112 122	19										A	広葉樹 60			
3	113 123 132 133 222 232	66						D	牧草 80			A	針葉樹 60 広葉樹 50			
4	141 142 143 144 242	89								D	トドマツ 60 アカエゾノツ 45	A	針葉樹 35 広葉樹 80			
5	151 152 153 234 244 251 252 253 254	42								D	トドマツ 20	A	針葉樹 20 広葉樹 15			
6	110 120 130 140 150 160 162 220 230 240 250 320 330 340 350 430 440 450	—														
7		186										A	針葉樹 10 広葉樹 10			
8		1														
市 町 村 計		402														
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
市 町 村 計																

3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

地 域 名			1 類 地	2 類 地	3 類 地
			音 別 地 区	阿 寒 地 区	別 海 地 区
地 形	傾 斜 谷 密 度		0~3°	0~8°	0~8°
	標 高 (植生限界)		0~400m	0~400	0~400
表層地質	岩石の種類 岩石のかたさ 時代				
土 壤	農 地	土壌統群生 産力可能性 分 級		くろぼく土壌 未熟くろぼく土壌 湿性未熟くろぼく 土壌	くろぼく土壌 未熟くろぼく土壌 累層くろぼく土壌 低位泥炭土壌
	林 地	土壌統群 地 位 級	褐色森林土壌 くろぼく土壌	褐色森林土壌 褐色森林土壌一 くろぼく土壌	褐色森林土壌 未熟くろぼく土壌
水 利 用	地 表 水 地 下 水 天 水		×	○	○
気 候 区 分			太平洋側—根釧—平野部		
面 積	土地利用可能性 分類地区別面積 文庁合計(A)		0.17	281.12	6183.14
	当該地域類地別 面積(B)		0.71	55.93	1285.96
	% (B/A)		100	19.9	20.8

4 類 地	5 類 地	6 類 地	7 類 地	備 考
白 糖 A 地 区	白 糖 B 地 区	弟 子 屈 地 区	羅 白 地 区	
1 5 ～ 3 0 °	1 5 ～ 4 0 °	8 ～ 3 0 ° (0 ～ 8 °)	8 ～ 4 0 °	
0 ～ 4 0 0	4 0 0 ～ 8 0 0	8 0 0 ～ 1 0 0 0 (0 ～ 4 0 0)	4 0 0 ～ 1 0 0 0	
火山放出物未熟土壌 くろぼく土壌 累層くろぼく土壌 高 位 泥 炭 土		粗粒火山放出物 未 熟 土 壌 泥 濫 原 砂 礫 地		
火山放出物未熟土壌 褐色森林土壌— くろぼく土壌	褐色森林土壌 ポドゾル化土壌 褐色森林土壌(暗色) ポドゾル化土壌 火山放出物未熟土壌	褐色森林土壌 ポドゾル化土壌	高山性岩屑土壌— 岩石地 褐色森林土壌(暗色) —ポドゾル化土壌 ポドゾル化土壌—高山性 岩屑土壌—岩石地)	
○	○	○	×	
太平洋側—根釧—沿岸部				
1 6 2 5.2 1	6 0 6.8 1	1 8 7.5 1	3 5 6.5 0	
3 4 7.4 8	1 6 1.6 0	1 1 8.4 1	1 8 5.6 7	
2 1.4	2 6.6	6 3.1	5 2.1	

